

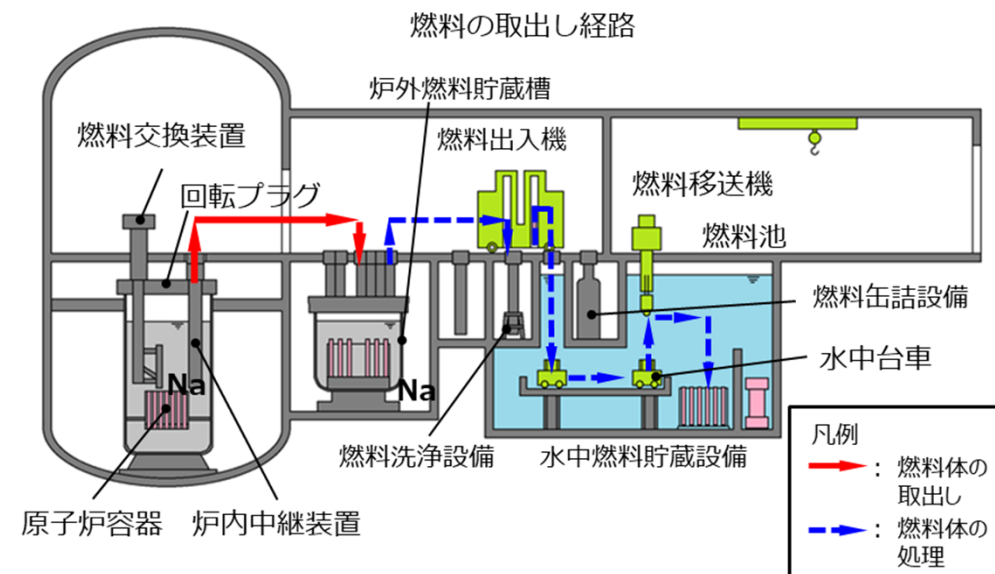
廃止措置に係る対応状況について

2021年10月22日

国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構

燃料体取出し作業の状況

- 炉外燃料貯蔵槽から燃料池へ燃料体を移送する「燃料体の処理」について、5月19日から移送作業を開始し、7月25日、計画していた146体の移送を完了。
- 2022年4月開始予定の原子炉容器から炉外燃料貯蔵槽へ燃料体を移送する「燃料体の取出し」に向けて、設備点検等を実施中。



年度		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
第1段階における燃料体取出し	燃料体の処理 (530体) 炉外燃料貯蔵槽→燃料池	2018.8 86体 (済み)	2019.1 174体 (済み)	2020.6 146体 (済み)	2021.3 146体 (済み)	2022.6 124体
	燃料体の取出し (370体) 原子炉容器→炉外燃料貯蔵槽		2019.9 100体 (済み)	2021.1 146体 (済み)	2022.4 124体	燃料体取出し作業完了
	設備点検					

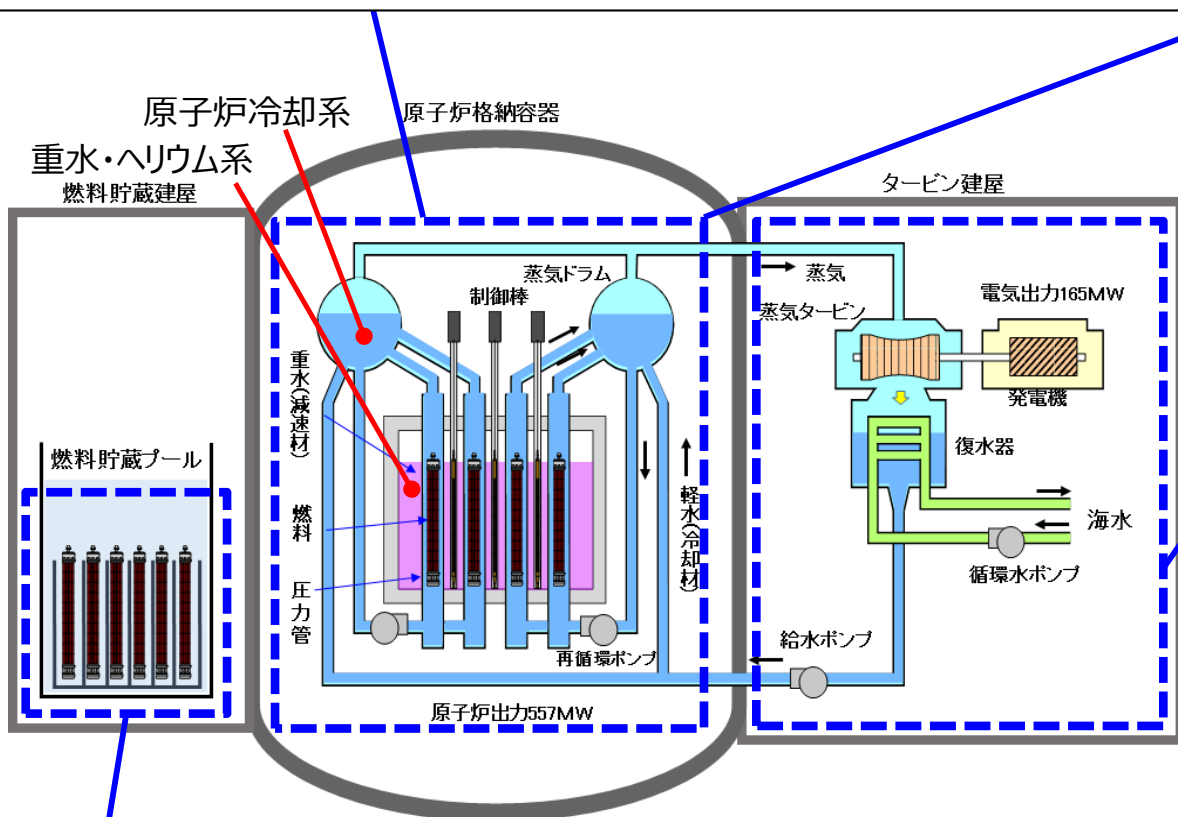
- また、2023年度以降に実施する主な作業や課題の洗い出し等を規制庁に相談しながら進めている。その結果を踏まえ、2022年6月に廃止措置計画の変更認可申請を行う予定。

「ふげん」は、2003年3月に約25年間の運転を終了。

2008年2月に廃止措置計画の認可を受け、2033年度終了の予定で廃止措置を実施中。

原子炉冷却系統の除染等

- ・2017年度までに系統化学除染、重水の施設外搬出、重水系等のトリチウム除去を完了



使用済燃料

- ・燃料貯蔵プールにおいて、466体を保管中
- ・2023年度からの燃料搬出に向けた準備等を実施中(2020/2/28輸送容器の設計承認申請→2021/5/13承認)

原子炉周辺設備の解体撤去

- ・2020年度までにAループ側の設備等の解体撤去を完了
- ・現在、Bループ側の設備等を解体撤去中(2021/3～2022/9)

解体撤去例 (Bループ 主蒸気ヘッド)



解体撤去前



解体撤去後

タービン設備、原子炉補助建屋内設備の解体撤去

- ・2020年度までに復水器や給水加熱器、原子炉給水ポンプ等の解体撤去完了
- ・2021度は復水系計装ラック、重水前処理装置等を解体撤去予定

廃止措置計画(保安規定)変更認可申請

- ・2021/9/3：セメント混練固化装置、原子炉補機冷却系代替冷却装置の導入等について申請

解体撤去物のクリアランス測定

- ・2018年12月から測定開始
- ・現在までに合計約307tonの確認証受領
- 第1回目:約49ton、第2回目:約126ton、第3回目:約132ton
- 第4回目の確認申請(2021年12月頃)